

海外安全対策情報
(平成30年度第4四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第4四半期(平成31年1月～3月)の情勢は以下のとおり。

- (1) 3月10日、エチオピア航空302便(アディスアベバ発ケニア行き)が墜落(乗員乗客は全員死亡。邦人被害者はなし)。
- (2) 3月19日、オロミア州西ウエレガにおいて、外国人2名(内1名は邦人)を含む5名が武装集団に襲撃され、殺害された。同地域は、野党のひとつであるオロモ解放戦線(OLF)のうち、反政府を謳う一部の武装集団が潜伏している地域とされている。
- (3) オロミア州とソマリ州、ティグライ州とアムハラ州及びベニシャングル・グムズ州とアムハラ州等の州境沿いでは、継続的に死者を伴う民族間衝突が発生している。
- (4) 1月、隣国ケニアにおいてイスラム過激派組織アル・シャバーブによるホテル襲撃テロ事件が発生。アル・シャバーブはソマリアに拠点があり、当国においても同組織によるテロ発生の可能性がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地においては、外国人を狙った強盗や窃盗事件が発生しており、第4四半期においても類似する被害が報告された。主な手口は次のとおり。

(1) 強盗事件

アディスアベバ市内において、強盗事件が発生している。早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首を絞められ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が認められる。

(2) 窃盗事件

アディスアベバ市内において、スリが増加している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕を掴む等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者のポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。犯人は一見して少年風など、若年層が多いと報告されている。

ミニバス(乗り合いタクシー)乗車中も、隣の乗客が液体を浴びせる等し、気を引いている内に携行物を盗んだ上で、社内清掃を装い被害者のみ降車さ

せ、ミニバスごと逃走する事案が認められる。

(3) ぼったくり事件

アディスアベバ市内において、ぼったくり被害が発生している。旅行者が滞在ホテル周辺を徒歩で移動していると、エチオピア人が「自分はこのホテルの関係者だが、いい飲食店を教えようか。」と近づき、「ホテルの関係者」と言われて安心し、勧められた飲食店に入って注文すると、高額の支払いを請求される手口が認められる。

(4) 当たり屋事件

車両走行中に牛・羊などの群れに遭遇し徐行した際、飼い主が急に車両前方に近づいて来て、車両に接触した素振りを見せ横転する。その後、警察へ届け出ない代わりに金銭を要求する手口が認められる。その際、車外に出て対応に当たっているドライバーへ周囲の取り巻きが暴行を加えるケースもある。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

3月19日、オロミア州西ウエレガにおける武装集団の襲撃により邦人1名が死亡。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

4. テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

国内において大きな災害は発生していない。

7. 対日感情

対日感情に係る問題は認知していない。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

3月にオロミア州西ウエレガで発生した事件（武装グループの襲撃により5名が死亡）を受け、同地域の危険レベルを1（十分注意して下さい）から3（渡

航は止めて下さい)に変更した。併せて、周辺の東ウエレガ及びケレム・ウエレガの危険レベルも1から2(不要不急の渡航は止めて下さい)に変更した。

本事件の被害者には、外国人が2名(うち1名は邦人)含まれている。

当国では、突発的な衝突や襲撃事案が国内の不特定地域において頻発しており、場合によっては日本人も襲撃に巻き込まれる可能性があるため、十分な注意が必要である。